

パキスタン、セイロンの 資料事情

まつ たに けん じ り う
松谷賢次郎

本稿は、昨年11月より約50日間の日程で行なったパキスタン、セイロン、インドの開発関係の資料事情調査の結果をまとめたものの一部である。今回の現地調査にさいしては、関係資料の収集のほかに、これら資料の情報源の調査があった。したがって訪問した3カ国のライブラリー活動、特にその書誌活動の現状に留意した。短期間であったため、十分な調査結果を得ることはできなかったが、しかし、今後これら3カ国に関する資料収集について、本稿が多少なりと参考になれば幸いである。なお本稿では、枚数のつごうでインドは除外することにした。

I パキスタン

東パキスタンの首都ダッカが今回の最初の訪問地であった。カラスの鳥き声で目をさまされ、輪タクが道路脇しと走り回っている市中。ダッカの表情とその体臭はカルカッタの下町といったところである。違っているのはインドの街頭につきものの、あの穏やかな表情をしてユックリと歩いている牛の姿が見当たらないことだけだ。カルカッタとダッカが、なぜ異なった国に属さなければならぬのか。ヒンドゥー教徒と回教徒ということが、このような不自然な状態を作り出さなければならぬのか。この気持は西パキスタンのカラチ、ラホールと訪問した時にいっそう強くなった。宗教的相違は、言語、文化、民族と他の共通要素にまさるものなのか。なんとなく割り切れないというのが正直な気持であった。

ダッカ訪問の第1目標は、東パキスタン関係の資料、特に開発関係の政府出版物についての調査とその入手ルート の確立であった。しかし結論としていえるのは、これにはまだまだ時間が必要であるということである。これはなにも東パキスタンだけでなく、パキスタン全体についていえることであった。パキスタンの政府出版物は東パキスタン、西パキスタン、中央政府と三つに分かれているが、この三つを統合する制度が設けられていない。また、各政府出版物リスト、さらに全国書誌 (National

bibliography) の編纂も遅れている。したがって、ここで、パキスタンにおける資料情報サービスとしての書誌活動について述べることにしたい。

一口でいってパキスタンの書誌活動の歴史はけっして浅くはないが、活発なものとはいえない。1951年に出版された A. R. Ghani, comp. *Pakistan; a select bibliography* が最初の本格的な書誌サービスの成果であった。本書には、1951年4月現在のパキスタン関係資料の中から約9000タイトルが八つの主題によって収録されている。しかし、本書はパキスタンの全出版物を網羅したものではなく、パキスタンに関して英語で出版された図書、パンフレット、雑誌論文を収録したものである。したがって、分離後の出版物からだけでなく、分離前のものからも採録している。。さらにその主題をみれば、(i) パキスタンの建国、(ii) 地理、(iii) 資源、(iv) 民族、(v) 経済、(vi) 産業、(vii) 農業、(viii) 家畜の八つであって、教育、文化、民俗などが含まれていない。パキスタンでは以前から全国書誌を望む声はあったが、納本制度のなかったことが大きな障害となってその実現をみなかった。1950年に International Conference on the Improvement of Bibliographical Services を契機に設けられた Pakistan Bibliographical Working Group は、1953年に *A guide to works of reference published in Pakistan* と *A guide to periodical publications and newspapers of Pakistan* を編纂した。そして全国書誌 *Pakistan national bibliography; Aug. 1947 to Dec. 1961* の編纂に着手したが、納本制度のない当時では非常に困難な作業であった。それでも各都市、各地区の図書館員と連絡をとり、約2万5000タイトルをデューイ (Dewey) 十進分類によって編纂したのである。しかし、この書誌は出版されないまま放置されていたが、最近やっと National Book Centre of Pakistan の手によって10分冊にして出版されるはこびとなった。その第1分冊が昨年8月に出版予定になっていたが、パキスタン滞在中その出版のニュースを聞くことができなかった。1962年以降の全国書誌編纂は Dept. of Archives and Libraries の手にゆだねられた。そして1962年版が *Catalogue of the Govt. of Pakistan publications 1962* のタイトルで出版されたが、1963年版以後はまだ出版されていない。全国書誌編纂作業は、1967年2月に、イスラマバードの国立図書館、カラチのリアカット記念図書館、ダッカの中央図書館の三つが納本図書館に指定され、出版物は30日以内に納本されることになったことも手伝って、

これからは順調に進められるものと期待されている。

1967年には、National Book Centre of Pakistan より *English language publications from Pakistan* と *English language periodicals from Pakistan* が出版された。前者には、分離独立以来パキスタンで出版された英語の出版物約2000タイトルが、主題別に収録されているだけでなく、出版社リストと主要な新刊書の紹介も含まれている。本書が図書館を対象にしているのに対し、後者はパキスタンで出版されている英語雑誌が、主題別に収録されている。このほかにも昨年暮に、同センターから *Directory of Urdu books* と *Reference sources on Pakistan* の2冊が出版された。

パキスタン訪問で得た最大の収穫は、日本にいて想像していた以上に、書誌活動が活発に行なわれていることを知ったことであった。この書誌活動の活発さについて特に注目するようになったのは、Pakistan Institute of Development Economics の Chief Librarian、アクタール・シデキ (Akhtar H. Siddiqui) 氏に会ったのが契機であった。同氏は Pakistan Bibliographical Working Group のメンバーとして各種の書誌編纂に努力したほかに、個人としても現在までに20冊以上にのぼる書誌を編纂し精力的に活躍している。最近出版された *Industrial Pakistan; a select bibliography 1948~1966* は、標題に示されているように1948~66年の約20年間のパキスタンの工業発展に関して英語で出版された内外の図書、パンフレット、政府出版物、雑誌論文約1500タイトルを、(1)工業経済と工業生産、(2)各種工業、(3)土着工業に対する関税保護の三つの主題に分けて収録している。巻末には著者名索引と雑誌リストが付されている。また *Foreign trade of Pakistan; a select bibliography* は、1947~66年の20年間のパキスタンの貿易に関する英文図書、パンフレット、雑誌論文755タイトルを主題別と相手国別に収録している。さらに *Directory of libraries in Pakistan* が同氏の編纂によって近いうちに刊行されることになっている。このようにA・H・シデキ氏の活躍は目ざましいものがあり、今後ともパキスタン関係資料についての有益な書誌が刊行されるものと思う。参考までに同氏の編纂した各種の書誌を出版年順にあげておく。

- (1) *Classified catalogue, Library of the Tariff Commission* (Karachi, Pakistan Tariff Commission, 1953).
- (2) *A guide to works of reference published in*

Pakistan (Karachi, Pakistan Bibliographical Working Group, 1953).

- (3) *A guide to periodical publications and newspaper of Pakistan* (Karachi, Pakistan Bibliographical Working Group, 1953).
- (4) *Tariffs in Pakistan; a select bibliography* (Karachi, Manager of Publications, 1954).
- (5) *Library resources of Pakistan* (Karachi, University Institute of Public and Business Administration, 1958).
- (6) *Publications of the Govt. of Pakistan, 1947-1957; a survey* (Karachi, University Institute of Public and Business Administration, 1958).
- (7) *South Asia social science bibliography (Pakistan)* (Karachi, Pakistan Institute of Development Economics, 1958).
- (8) *Star and crescent; an annotated and selected bibliography of Pakistan* (Karachi, University Institute of Public and Business Administration, 1958).
- (9) *Bibliography on Rauwolfias, botany, chemistry and therapeutics* (Karachi, PCSIR, 1959).
- (10) *A guide to Pakistan libraries, learned and scientific societies and educational institutions* (Karachi, Pakistan Bibliographical Working Group, 1960).
- (11) *Bibliography of bibliographies published in Pakistan* (Karachi, Pakistan Bibliographical Working Group, 1961).
- (12) *Scientific and technical periodicals of Pakistan* (Karachi, Pansdoc, 1961).
- (13) *Unions catalogue of social sciences periodicals held by the libraries of Pakistan* (Karachi, Pakistan Bibliographical Working Group, 1961).
- (14) *Cotton genetics and breeding; a select bibliography* (Karachi, Pakistan Central Cotton Committee, 1962).
- (15) *Directory of Pakistan's social sciences periodicals* (Karachi, Documentation and Information Bureau, 1964).
- (16) *Economy of Pakistan; a select bibliography, 1947-1962* (Karachi, Pakistan Institute of Development Economics, 1965).
- (17) *A guide to reference books published in Pakistan* (Karachi, Pakistan Reference Publications,

1966).

- (18) *Economy of Pakistan: a select bibliography, 1963-65* (Karachi, Pakistan Institute of Development Economics, 1967).
- (19) *Union catalogue of scientific and technical periodicals in the Pakistan Council of Scientific and Industrial Research Libraries* (Karachi, Pansloc, 1967).
- (20) *Industrial Pakistan; a select bibliography on the industrial development of Pakistan* (Karachi, Edition Mystics, 1968).
- (21) *Foreign trade of Pakistan; a select bibliography* (Karachi, Royal Book, 1963).
- (22) *Pakistan in the world of research and learning; a guide to research and development organisation in Pakistan* (Karachi, Pakistan Reference Publications, 1968).
- (23) *Reference sources on Pakistan; an annotated bibliography of bibliographies on Pakistan* (Karachi, National Book Centre of Pakistan, 1968).

このほか Planning Commission の Chief Librarian の M. I. Khurshid 氏は “Agriculture; a bibliography of the documents and working papers of Planning Commission, Agriculture Section. 1962,” “Pakistan abstracts” を部内資料として編纂していたが、現在は中断されていた。同氏は個人的に分離独立以降約10年間の新聞記事を約500の件名で整理していたが、これなど貴重な資料であるにもかかわらず、ちょうど、ラワルピンジからイスラマバードへの移転中のため雑然とした事務室の隅に放置されていた。第2次大戦でチャンドラ・ボスのインド解放義勇軍に参加したとのことで、非常に好意的であった。

このほかに、パキスタンにおける書誌活動としては、通称 NIPA といわれている Pakistan Institute of Public Administration から *Bibliography of public administration in Pakistan, Bibliography of organization and methods in Pakistan* が刊行されている。また、State Bank of Pakistan の Library では1964年1月以来、月刊で経済関係の雑誌記事索引を編纂している。Documentation and Information Bureau からは *Pakistan press index* が1966年から出版されているが、これはパキスタンの代表紙 *Dawn, Morning News, Pakistan Observer, Pakistan Times* の4紙を基にし

て作成している。

全国書誌の編纂が遅れているパキスタンでは、アメリカの議会図書館がP L480計画によって収集、刊行している *Accession list, Pakistan* は見のがすことのできない資料であり、特に年刊の *Annual list of serials* はすべての定期刊行物が収録されているので便利である。

パキスタンでの強い印象は、東パキスタンと西パキスタンとが、すべての面で違いすぎていることであった。気候・風土の違いによるものとも思われるが、湿度の高いベンガル特有の泥臭さと汗臭さがただよっているダッカ、これに対し、カラッとした感じのカラチやラホールでは、人々の行動も東よりも西のほうが、活発に感じられた。高温多湿の重苦しい環境の中では、自然に従順にならざるをえなくされたのか、おっとりとしたベンガル人の住むダッカで、ある商社の人は「東パキスタンでの商売のほうがやりやすい。しかし、人を使うとなると東の人間は駄目だ。こちらがいったことを、西の人間が6割理解するなら、東の人間はせいぜい3~4割程度、西パキスタン人は自分たちが東の人間と同じだといわれることを恥と考えている」と話してくれた。カラチの街で見るパキスタン人の多くは、その昔、片手に剣を、片手にコーランを、ラクダの背に乗って砂漠を縦横無尽に駆け回った姿をほうふつさせる。また彫りの深い色白の美人の姿は、結構旅行者を楽しませてくれる。東パキスタン人からは感じる事ができなかったが、西パキスタンでは多くの人々がインドに対して非常に敵対感情をいだいているのには驚くと同時に、悲しくさえ感じられた。ラホールではタクシーの運転手が「旦那は日本人か。日本人はとても親切な人が多く、また非常に勤勉である」と話しかけ、次に「パキスタンと日本は友達であり、パキスタンと中国とは友達である。パキスタン、中国そして日本とがしっかり手を握れば、アメリカの援助を受けるインドなんか問題ではない」といわれた時には返事に困ってしまった。また、パキスタン関係の貴重資料についてもインドを援助しているアメリカには売りたいくないという声も聞かされた。

ダッカ、カラチ、ラホールと各地で日本製品が多く出回っているのには驚かされた。自動車、テレビ、その他の電気用品、さぞ外貨事情が良いにちがいないと思ったところ、開ドルが公定の1ドル4.7ルピーに対して、7.5~8.0ルピーと大きな開きがあるのには理解に苦しんだ。貴重な外貨をなぜたいせつに使わないのか。なんとなく、肩や胸にキラキラ光る勲章をつけるのが好きな軍人の趣

味が感じられたのはおもしろかった。アユブ・カーン大統領に対する反対運動が各地で盛りあがっていたときであり、いろいろ反対意見を聞かされたが、その中で「われわれがかれに期待したのは、パキスタンを外国の侵略から守ってくれることであって、われわれを統治することではなかった。それなのに、かれはわれわれを統治、支配している」ということばがとても印象的であり、一般大衆の偽らざる気持のように思われた。

政治、経済情勢とは別に、パキスタンにおけるライブラリー活動には明るい希望をいだきながら、約3週間の滞在を終え、次の訪問地セイロンに向かった。

II セイロン

わずか5日間の滞在ではあったが、セイロンにおけるライブラリー活動には、注目すべきものはみられなかった。出版物の数も少なく、アメリカの議会図書館がP.L. 480計画にもとづいて収集しているセイロン出版物も、1年間で要する費用は、約10万ルピー、これは同一資料を19機関に配布するために必要な額で、1部だけだと約5000ルピー(約1000ドル)あまりにすぎない。したがって、英語で書かれた経済関係資料となると、その数はきわめて少ないといえる。本屋に行っても、お国がらを反映してか、やたらと仏教関係の本が並んでいる。したがって、この国に関する資料としては、政府出版物が特に重要になってくる。そして、この政府出版物を収集するには、とても便利な制度があるのでわれわれにとっては

好つごうである。

これは、政府出版局(Government Publications Bureau)に前もって預託金をしておくDeposit制度があることである。預託者は、必要な資料をそのつど注文すればよいし、定期的に収集する資料については、預託するときに資料名を連絡しておくことによって自動的に送付されることになっている。したがって、継続して収集したい政府出版物を入手する際には、非常に便利である。

書誌サービスの遅れているセイロンでは、アメリカの議会図書館のP.L.480計画にもとづく*Accession list*; *Ceylon*に資料の出版状況を依存しなければならない。もっとも、Dept. of National Archivesより季刊で*Ceylon national bibliography*が出版されている。

セイロンでの印象は、働く女性の多いことであつた。セイロンの女性が働き者なのか、男性がだらしないのかはわからないが、訪問先で、若い女性の姿に接することができることは楽しいことであつた。Central Bank of Ceylon, Ministry of Planning and Economic Affairs, Industrial Development BoardのChief Librarianはいずれもミセスではあつたが、みんな明るい感じのするセイロン美人である。また、Central Bank of CeylonのChief Librarianの肩書きは、Research Librarianとなつており、アメリカで図書館学を学んだとのこと、ライブラリー活動の中でResearchという言葉が使われていることを知つたことは、一つの収穫であつた。

(図書資料部収集課長)

アジア経済研究所刊行

経済援助の研究

原 覺 天 編

500頁 定価 1750

▷概説—経済援助の目的と理念／援助の実施状況／援助の効果／援助の拡大の可能性と方向▷アメリカの経済援助—援助政策の歴史的発展と推移／援助の実施状況／援助効果／援助の拡大の可能性と方向▷イギリスの経済援助—経済援助の歴史的背景／経済援助の実施状況／イギリスの対外援助の性格／今後の課題▷フランスの経済援助／援助の理念と目的の変遷／援助の実施状況／援助の効果／援助拡大の可能性と方向▷西ドイツの経済援助—援助政策の発展と目標／援助実施政策の現況／援助の規模と資金繰り／援助の管理・実施機構▷ソヴェトの経済援助—ソヴェト援助の影響とその政策目的／量的発展過程にみられた問題点／ソ連圏援助の諸特徴／ソ連圏援助の目的と効果〔付録〕研究参考資料

アジア経済出版会発売